

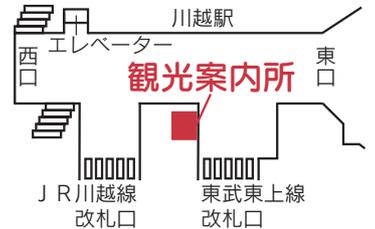
# めぐり 施設

川越駅観光案内所  
TEL 222-5556



川越駅には、年中無休の観光案内所があります。東武東上線改札口周辺の改装に伴い、昨年五月に同案内所も新しくなり、目に付くようになりました。観光情報の提供、川越駅周辺や市内名所を巡るバスの案内など、仕事はさまざま。川越まつりの時には、一日の来客数が千人を超えます。観光マップや、名所・施設・バスなどの各種パンフレットがそろっています。

三月三十日(月)から、小江戸川越を舞台にしたNHK連続テレビ小説「つばさ」の放送が始まります。さらに多くの観光客の皆さんで、川越のまちも同案内所にもぎわいそうです。



英語・フランス語・ドイツ語・中国語・ハングルの5か国語で書かれたパンフレットもあります

## 人権教育シリーズ

### 児童・生徒の作文⑥

平成十九年度に川越市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけほの」から、作品を紹介します。

教育指導課・TEL 224-6114

#### 私のひいばあちゃん

中学一年生

「来週、ひいばあちゃんがこっちに来るからね。」

六年生の夏休み、突然母に言われて、私は驚いた。九州に住んでいるひいばあちゃんが、親せきの多い埼玉の祖母の家で、一緒に暮らし始めるという。私の記憶では、あまり会ったことのない人だ。

ひいばあちゃんは「認知症」という病気で、一人で生活することができなくなってしまったらしい。しかし、私は病気のことは少しも気にならなかった。ひいばあちゃんと会えることが楽しみだったから。

そして、去年の八月。ひいばあちゃんが祖母の家に来てきた。

ひいばあちゃんは来た日から二ヶ月くらいは、母たちも困るくらいひいばあちゃんの様子はおかしかった。真夜中に起きて、祖母たちに「ここはどこ？」と聞いたり、ちよつとしたことで怒ってしまっ

たり。

私にも何回も「何年生？」とか「どこの子？」と聞く。認知症は物忘れが激しいということぐらい頭の中ではわかっていても、実際はうまく整理できなくて困ってしまった。

そして、だんだんひいばあちゃんに会うのがいやだなと思うようになってしまった。しかし、ひいばあちゃんは何も悪くない。悪くない人をいやがる自分もきらいだった。

久しぶりに親せきみんなで食事をした。久しぶりに見たひいばあちゃんは笑っていて、前に見たときよりも元気になってるのがわかった。そして、ひいばあちゃんも新しい環境に慣れようと必死に頑張っていたことを知って、ひいばあちゃんを少しでもいやだと思つた自分がとても恥ずかしくなつた。

(つづく)

\*ふりがなは広報室で付けました。

## いざ！ 災害に備えて⑩

防災危機管理課・TEL224-5554

### ●自主防災組織について その3

自治会や出張所管内などを単位とした多くの地域で、自主防災組織などの主催による防災訓練が実施されています。

これらの防災訓練では、初期消火・避難誘導・炊き出し・AED（自動体外式除細動器）の使用などの訓練が行われています。訓練に参加することで、災害が発生したときの行動力を身に付けることができます。市でも、市民の皆さんや防災関係機関の参加・協力を得て、総合防災訓練を実施しています。

お住まいの地域で、訓練が実施される場合には、積極的に参加しましょう。



大東地区消防特別点検・防災訓練のAED講習

## 「マガン」がやって来た!

環境政策課・TEL224・5866

昨年十一月二十一日、「雁(かり)」として市の鳥に指定されている天然記念物・「マガン」が、伊佐沼に飛来しました。県生態系保護協会によると、伊佐沼にマガンが来たのは、二十四年ぶりとのこと。

マガンを発見したのは、伊佐沼写真クラブの会員の皆さんです。日の出の写真を撮っているときに見つけ、姿が大きかったため、初めは白鳥かと思っただけです。しかし、よく見てみるとマガンの成鳥であることがわかりました。体全体は暗褐色、くちばしは淡いオレンジ色で、成鳥はくちばしの付け根部分から額にかけて白いのが特徴です。

市は、平成四年に市制施行七十周年を記念して、市の鳥を「雁(かり)」に制定。川越城の別名が「初雁城」と呼ばれているのをはじめ、古くから川越地方を表す歌に「雁」が登場するなど、川越とゆかりのある鳥です。

マガンにかかわらず、動物は気温や水温といった自然的条件が整い、安心でき、餌が取れる環境があれば、生息しやすい快適な場所として認識するようです。川越が再びマガンにとって快適



伊佐沼写真クラブから頂いた、マガンの写真。非常に警戒心が強い鳥で、もっと近づいて写真を撮ろうとしたら、飛び去ってしまったそうです

な場所になってきているのでしょうか? 今後、多くの生き物にとって良好な生息の場となる環境を保全し、生態系の維持や種の保存につなげていきます。

## 短歌・俳句・川柳 市民文化祭入選作品

川越市民憲章には、「文化の香りたかいまち」ということがあります。そこで、市と川越市文化団体連合会が共催で市民文化祭を開催し、市民の皆さんの芸術・文化活動を応援しています。正月は、日本の伝統的な文化にふれることができる時期です。ここでは、昨年開催された市民文化祭の、短歌大会・俳句大会・川柳大会で入選した作品の一部を紹介します。

### 短歌

渋滞を承知で選ぶ通勤路信号待ちはわたしの時間

室内は禁煙の我が家ペランダの寒菊のかげに灰皿のあり  
藤村を熱く説きたる彼の時の君いま小さく車椅子に乗る

電話にて会話のときれたる暇柱時計の打つ音きこゆ

窓外へ足突き出しつ助手席の足裏見せてトラックが過ぐ

### 俳句

この次の風で起とうか草の絮

おきな子のグウをこぼるる赤まんま

竹春の日の斑を踏める嵯峨野かな

石ひとつ拾ひしわれのそれも秋

広がり絵巻に勝る紅葉狩

### 川柳

飛び切りの提示ルーキーへの期待

はいはいと言って自省の貌がない

一枚の絵馬にぎつしり志望校

明日と言う生きる望みを積み重ね

鈍行と決めて余生に欲がない

竹ノ谷房代(菅間)

鈴木秀子(北田島)

山崎桂子(六軒町一丁目)

佐藤淳子(小ヶ谷)

小澤繁雄(石原町二丁目)

山崎たき(城下町)

岸本塘夢(的場一丁目)

橋本照子(小仙波町三丁目)

佐藤幸榮(古谷上)

山崎輝子(笠幡)

丸山しげる(神明町)

時枝利幸(今福)

山岡涼山(中原町二丁目)

北川ふじ子(三久保町)

和田ふみの(松江町二丁目)

